

第231号

平成25年 9月10日

# 病院だより



第4回キッズセミナーを開催しました

Noriaki Kameyama

亀山 哲章

骨粗しょう症とロコモティブ シンドローム

Kenji Yoshioka

吉岡 研之

外来化学療法室をリニューアルしました

Tetsuo Murai

村井 哲夫



## 国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1  
TEL 045 (813) 0221 (代 表)  
FAX 045 (813) 7419 (総務課)

当院ホームページをご覧ください。

<http://shinzen.jp>





## キッズセミナーを開催しました



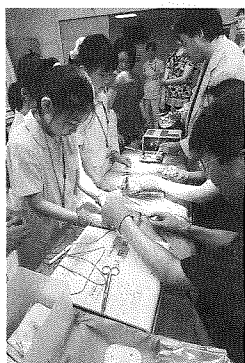
8月11日(日)に第5回キッズセミナーを開催しました。

当院のキッズセミナーは小学生を対象とし、本物の器具を使用して様々な体験をするセミナーです。午前は小学3・4年生30名、午後は5・6年生30名が参加し、外科医、整形外科医、救命救急、看護師、助産師の業務を体験してもらいました。

日曜日にもかかわらず約90名の職員に迎えられた子供たちは、医師や看護師のユニフォームに着替えて実習に臨みました。子供達の真剣な眼差し、しっかりと説明を聴く態度、興味を持ってのめり込むように実習する姿は、ご父兄も『このような姿は見たことがない』、『こんなに集中してやるなんて』など驚く状況でした。



体験セミナーに加え、今年は当院の創立150周年特別企画として現役医学部生と看護学部生による講演会があり、どのように医学部や看護学部を目指したのか、勉強したのかなどの体験談を語ってもらいました。現役大学生ならではの視点からの体験談は子供たちのみならず、ご父兄の方々にもご参考いただけた様子でした。アンケート結果から、参加した子供たちやご父兄の満足度は非常に高かったことが分かりました。また参加した当院の職員の満足度も高く、特に1年目の職員にとっては病院としての社会貢献の一役を担ったという満足感もありました。そしてこのキッズセミナーは13日の神奈川新聞に当院の社会貢献として大きく取り扱っていただきました。



このようなキッズセミナーは、病院の中で本物の器具に触れることができるものですが、この体験が子供たちにとってかけがいのない体験になり、将来の医療従事者を目指すきっかけになれば幸いです。

キッズセミナー代表・外科部長 亀山 哲章

## もっと知っていただきたい 骨粗鬆症とロコモティブ シンドローム

世界に類を見ない高齢化社会となっている日本において、加齢による体の様々な変化は誰もが直面する問題であり、また避けられないものもあります。またそれらは個人の問題で帰結するものではなく、医療・福祉・経済などに関して社会全体の問題として考える必要があります。その中で重要な位置を占めるキーワードとして「骨粗鬆症」と「ロコモティブ シンドローム」の2つがあります。

「骨粗鬆症」は、骨が弱くなることによって様々な外傷・障害の原因となるため、その予防と治療が極めて重要だということがだいたい認知されるようになりました。しかし最近では骨粗鬆症についてさらに詳細なデータが蓄積され、治療方法に関しても様々なエビデンスが知られるようになり、従来の考えとは違う観点を持つ必要が出てきました。

「ロコモティブ シンドローム」は、生活習慣病の警鐘としての「メタボリック シンドローム」と比べるとまだ認知度が低いです。しかし、からだが不自由になってしまうことにより活動が制限され、健康寿命の低下と社会的な負担が増大するなど生きる上で重要な概念として注目されるようになってきています。



これらはいずれも整形外科領域で重要なキーワードであり、手術による治療のみならず薬物・運動療法による「予防」が極めて大切で、さらに言えば様々な職種で連携し、地域全体で協力しあうことによって効果が高まるものです。

今回はこの2つについて簡単にできる予防法と最近の知見について述べさせていただきます。

整形外科医長 吉岡 研之

このテーマは

平成25年10月11日(金) 15:00から約1時間

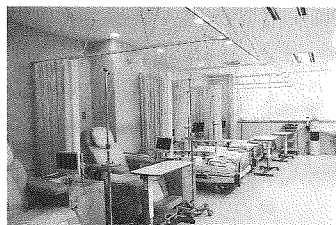
の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

# 外来化学療法室をリニューアルしました

～より安全にそして快適に～

通院しながら安全、快適にがん化学療法を受けていただけるよう、平成25年8月26日に外来化学療法室をリニューアルしました。

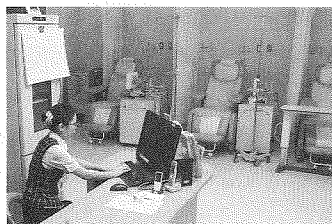


抗がん剤治療（化学療法）は、嘔気などの副作用のため長期間の点滴が必要であることが多く、10年以上前まではそのほとんどが入院で行われていました。しかし近年副作用を軽減する薬剤が開発され、投与法の工夫も進んだことなどから、こうした副作用がかなり抑えられる

ようになり、化学療法の多くが入院治療から外来治療へと移行しつつあります。

当院でも平成14年に外来化学療法室を開設し、治療を行ってまいりましたが、近年化学療法を施行する患者様の数が増えたため、従来の手狭なスペースでは十分な治療を行うことが困難となってきました。そこで今回、より安全にそして快適に治療を受けていただけるよう、外来化学療法室を根本的に再整備しました。従来の倍以上のスペースを確保し施設を整え、飲食なども自由に行っていただくようにしました。

また、今まで中央処置室で行っていた癌に対するホルモン注射なども、外来化学療法室での治療に移行しました。スタッフとしては専任看護師1名を含む看護師2名を常時配置して、抗がん剤による治療を、不安なく外来で受けていただけるよう努めています。



がん治療は日々進歩していますが、患者さんは常に様々な不安を抱えながら治療をお受けになっていることと思います。当院では医師・看護師・薬剤師を始めとしたスタッフが互いに協力し合い、医学的根拠に基づいた治療を、きめ細かなケアとともに患者さんにご提供するべく努力を続けてまいります。

化学療法室室長 村井 哲夫